

# 中ソ改善は徐々に進む

東京外大 中嶋教授が講演

サンケイ懇話会



サンケイ懇話会十一月度例会が二十日、大阪市北区のクラブ関西で開かれ、東京外国語大学教授、中嶋嶺雄氏が「中国の転換と日本」をテーマに講演した。写真。中嶋教授は最近の中国の政治情勢について「六月に行われた六中

総会で政治的には鄧小平・胡耀邦体制が固められ毛沢東路線は完全に否定された。毛沢東のために中国はダメになったと、はっきり表明する人がリーダーシップをにぎっている」と指摘。「鄧小平・胡耀邦体制も百%万全とはいえない

が、華国鋒ら文革派には政府を覆す力はもうないだろう。むしろ中国の共産主義に疑問を持ついわゆる反体制派の方が手ごわいのではないか」と述べた。

こうした背景をふまえ、中嶋教授は今後の注目すべき中国の動向として①ソ連との関係改善②四つの現代化のための経済政策③二点をあげ、中ソ関係については「口では中国はソ連の覇権主義を攻撃しているが、すでに中ソ関係は徐々に改善の方向への瀬路みが見え始まっている」と強調。また、中国経済の底上げのために、中国は福建、広東など沿岸諸省への華僑資本の導入に期待をかけていることを紹介し「台湾に対する国共合作提案の一番のねらいも、華僑資本の導入にある」と語った。

その上日本に対しては「中国自身、かなりさめているので、日本の財界や政治家が期待しているようにはいかないだろう」と述べた。